

進化する洋画披露

真新しい白い壁に油絵の大作がゆったりと並ぶ。吹き抜け部分の天井高は約5メートルもあるという。岡山大学院教授の洋画家泉谷淑夫さん(62)＝総社市三須＝が、自宅・アトリエの新築を機に開設したギャラリーは、美術館さながらの上質な空間が広がっていた。

「いつでも作品を見てもらえる場所があるのは、制作に張りが出る」と泉谷さん。14畳もの奥行きのある1階と小部屋風の2階に、文明批判をテーマに人間を羊の群れに置き換えた代表作「楽園の寓話」シリーズの大作から若いころの風景画まで約40点を並べる。収蔵庫も備えた、ぜいたくな場の創出は「自分への投資」ときっぱり。表現を模索した20、30代、岡山大に赴任し羊の世界を確立した40代、県展の審査員になり若手を育てた50代。そして画家として集大成の時期に入っていく60代を迎え、「最高の環境を整えて勝負をかける。自分を追い込んだんです」。

岡山大大学院教授・泉谷淑夫さん 総社にギャラリー

手狭だった同市内の自宅アトリエを手放し、吉備の田園風景を臨む丘の上に転居。ギャラリーと自宅、アトリエが一つにな

集大成60代 「自分への投資」

った建物は、白とグレーの市松模様が目を引く外観、間取りもすべて自分でデザインした。明るいアトリエの中2階には、敬愛するオランダの画家フェルメールの大作「画家のアトリエ」そっくりの小部屋を設ける遊び心も。

昨年5月に引っ越して以来、美



自作を並べたギャラリーで「絵画の世界をゆっくり楽しんでほしい」と話す泉谷さん

術館で初個展を開いたり、作品が作家筒井康隆の選集の装丁・挿絵に採用されたりと「風は吹いている」。アトリエでの制作も気持ちよく進んでいるといい「過去に甘んじず、新しい絵に挑戦していきたい。進化する自分をギャラリーでお披露目できれば」と話している。

ギャラリー鑑賞には事前予約(0866-7760)が必要。(岡田智美)